

## '91年もCMSCのさらなる発展の年に。

明けましておめでとうございます。

最近ではモータースポーツに対する一般社会の関心、評価も高まり、モータースポーツに携わる者として大変うれしく、また励みに思っております。

昨年はわがCMSCも、各支部が積極的に活動していただいた結果、めざましい発展の年となりました。CMSC愛知の発足、夏の全国大会では約200名のクラブ員が全国から集結するなど、クラブ員同士の交流を一層高めることができました。

また、クラブ員個人の活動にも目を見張るものがありました。全日本ラリー、全日本ダートトライアル、さらに、サーキットではミラージュカップを中心としたレース活動など、本当に素晴らしい成績を残され、クラブを代表する者として大変光栄に思います。

さて、今年も昨年以上にモータースポーツに対する注目が高まると予想されます。このような状況の中で、全国に支部を持つモータースポーツクラブ・CMSCとし

ては、全国の数あるモータースポーツクラブのお手本となる存在でなければなりません。

安全の問題、環境破壊の問題など、モータースポーツが抱える問題は多々あります。モータースポーツはルールを無視すると非常に危険なスポーツですので、安全には細心の注意を払って活動されることを願います。またラリーについては、一般公道での競技ですので、一般社会との良い関係を保ちつつ、モータースポーツの発展と振興をすすめるようお願いいたします。

新年早々から各支部の主催イベントやクラブ員の活動など、今年の活動計画が本部に報告されています。本部としては、皆様が活動しやすいフィールドを創ることに最大限の努力を払い、市民権を得つつあるモータースポーツを一般社会に定着させていこう、その一翼を担いたいと思っております。

皆様の安全を祈るとともに、CMSCのさらなる発展の年となるよう、お願いいたします。



CMSC会長 外川 一雄



CMSC山形・砂塚明男選手'90全日本ダートトライアル第7戦(広島)AIII制覇2勝目をあげる。

# CMSC勢、AIIIクラスシリーズ2、3、5、6位に!!

'90全日本オールスターダートトライアル/'90全日本ダートトライアル選手権/11月24日~25日

榊田正文選手 (CMSC岐阜)

「全日本3連覇を達成できず残念です。しかしシリーズ2位には満足。来年はチャンピオン奪還を狙って頑張ります。」



荒井信介選手 (CMSC群馬)

「第2戦で優勝でき、また最終戦までチャンピオン争いに残り、良いシーズンでした。来年はチャンピオン目指して頑張ります。」



赤羽政幸選手 (CMSC山形)

「8戦ともポイントを稼げたことが良かったと思います。優勝できなかったため、来年は優勝を目標に、更に上位を目指します。」



砂塚明男選手 (CMSC山形)

「第5戦、第7戦で優勝してきたが、波がありすぎポイントが稼げなかったのが残念。前半の不調が最後まで響いてしまった。」



'90全日本ダートトライアル選手権シリーズポイント(全8戦中上位5戦有効ポイント) AIIIクラス

1位	84ポイント	西尾雄次郎		三菱ギャラン
2位	72ポイント	榊田正文 (CMSC岐阜)		三菱ギャラン
3位	67ポイント	荒井信介 (CMSC群馬)		三菱ギャラン
4位	62ポイント	湯本敬		日産ブルーバード/パルサー
5位	51ポイント	赤羽正幸 (CMSC山形)		三菱ギャラン
6位	48ポイント	砂塚明男 (CMSC山形)		三菱ギャラン
7位	45ポイント	山下公男		スバルレガシイ
8位	22ポイント	諫山宣憲		三菱ギャラン
9位	21ポイント	杉本達也		三菱ギャラン
10位	15ポイント	小泉秀明		三菱ギャラン

去る11月24日・25日、「'90全日本オールスターダートトライアル」が、全国から強豪選手を集めて、開催され、「'90全日本選手権」も幕を閉じました。

注目のAIIIクラス(200cc以上)では、シリーズチャンピオン争いがこの最終戦までもつれ込み、しかも三菱ギャラン勢同士が僅差でポイント争いを展開するという大接戦となりました。わがCMSC勢では、今季未勝利ながら、第7戦まで2位、7位、7位、4位、2位、3位、2位とコンスタントに上位に入賞している榊田正文選手(CMSC岐阜)が、ポイントランキング1位で3年連続チャンピオンの最有力候補。また第2戦で優勝して気を吐く荒井信介選手(CMSC群馬)も、第4戦5位、第5戦4位、第6戦2位、第7戦4位とポイントを稼ぎ、チャンピオン獲得に意欲を燃やします。

そして、第7戦まで、7位、2位、4位、10位、8位、4位、5位、とコンスタントにポイントを稼いだ赤羽政幸選手、シリーズ前半不調ながら第5戦、第7戦に優勝した砂塚明男選手のCMSC山形勢もランキングの好位置に付けています。

最終戦ではフラットなハイスピードコースを豪快な走りで攻めた荒井選手が2分09秒81と好タイム。榊田選手もここの一番の大勝負にベテランの本領を

発揮し、2分09秒61とすばらしいタイムでトップを奪取。しかしポイントランキング2位につけている西尾雄次郎選手が、それを0秒38上まわる2分09秒23でトップを奪い、残念ながら榊田選手の3年連続チャンピオンは成りませんでした。

'90シリーズランキング(AIII)では、2位榊田選手、3位荒井選手、そして5位赤羽選手、6位砂塚選手とベスト6に4人がランクされました。

またCIIIクラスでは、千田俊二選手(CMSC札幌)が、第4戦優勝をはじめ、第5戦3位、第6戦2位と好成績をあげてシリーズ4位に入っています。

CMSC勢の活躍が目立った'90シーズンでした。

千田俊二選手 (CMSC札幌)

「'90年より全日本ダートに転戦したが、早くも第4戦で優勝でき、大いに自身がつきました。資金が続く限り頑張りたいと思います。」

## '91年は全日本戦にエントリー

(CMSC青森 梶沢宏之)

### CMSC青森 梶沢宏之選手の'90シーズン

'90シーズンはB・C地区戦とJMRC東北ラリー選手権の両タイトルを追いしました。

B・C地区戦は、資金の都合から、全9戦中5戦に参加しました。結果の方は、MSC20ウインターラリーで4位、群馬アルペンラリーで8位、コンペミニツアーでは入賞外とバツとせず、先輩の大西選手にかなり強くハッパをかけられました。

私にとって当クラブは、とても環境の良いものです。というのも、かの有名な三羽鳥と館山・大西・福土選手

という先輩が周りにいるからです。車のセッティングや練習法と、先輩方から色々アドバイスをもらえることができるからです。

特に大西選手は、練習で一緒に走ってくれるので、タイム差やコーナーのラインどりを比較でき、参考になります。またスランプに陥った時、積極的に彼の横に乗せてもらい、その走りを頭の中にイメージして走るようにしています。

その結果、後半戦はEASTラリーチャレンジで5位、ベルナルサマールリ

ー4位と、B・C地区戦1年目としてはそこそこの成績を残せました。

また東北シリーズでは、全4戦中3戦に参加し、第1戦、第2戦と連続優勝、3戦目が3位と予想以上の成績が残せました。特に第1戦では、先輩の館山選手も参加しており、絶対優勝すると自分にプレッシャーをかけての優勝でしたので自信ができました。またナビの石田君もB・C地区戦への参加により、勝負度胸もつき、当クラブの先輩ナビにも引けを取らないナビに成長したシーズンでした。

このようにして、先輩三羽鳥に続き、'90東北シリーズチャンピオンをとれたことは、大変うれしく思います。

'91シーズンは、B・C地区、東北シリーズ両タイトルを目指してがんばりたいと思います。また全日本にも1、2戦エントリーしたいと思うので、よろしくお願いします。



## ジムカーナシリーズ戦を振り返って

(CMSC青森 鶴ヶ谷慶市)

### '90CMSC ジムカーナ青森シリーズ/CMSC青森

今年はクラブ主催によるジムカーナを、シリーズ戦で4戦開催しました。

近年ジムカーナ熱も高く、ジムカーナファンからは公認イベント開催を望む声が高まっています。またクラブの若手の要望もあり、モータースポーツの底辺拡大を目的に、開催にふみきました。

当クラブでは今までにラリー、ダー

トラの開催経験はありましたが、ジムカーナは初めてでしたので、多少の不安はありました。レギュレーション作りからエントラント集めに、毎戦ごとに何回もミーティングを開き、また開催前日には、会場に泊り込んでコースの安全対策には万全を配すなど、当クラブのジムカーナ部長、小館選手を中心としたクラブ員の努力もあり、全

4戦を大盛況のうちに終了することができました。

シリーズ最終戦の第4戦(9月2日)には、JMRCジムカーナシリーズ戦CIIチャンピオンの高橋利武選手を招き、エントラント、ギャラリーから大好評を得ました。

また9月30日にはシリーズ戦の表彰式を行い、シリーズ戦の成功を祝うと

ともに、'91年も続けて開催することを全員で確認し合いました。



# 秋本番！もみじ狩りトリアル

(CMSC仙台 初田昌子)

## もみじ狩りトリアル/CMSC仙台/11月18日

CMSC仙台が年1回主催するダートトリアル。今年は天候に恵まれて、11月18日(日)にオートランド川崎にて開催しました。

40台と参加台数は少なかったトリアルでしたが、2回目ということもあり、当日のコースの設定等の段どりもまずまず。

紅葉をバックに走るギャランVR-4の走りは豪快で、ドライバー達に1トライ目よりも2トライ目と、ドライビングに力を入れさせました。チョット力

が入り過ぎて、下に落ちてしまったエントラントもありましたが、怪我もなく午前中に2トライとも終了。

途中でコース上に、知る人ぞ知る!! 名犬? ラッシー (かくれたオフィシャル犬) が出てきてしまいました。幸いにも大事には致らず、逆にギャラリーには大人気。

寒かったので、お弁当も「いも煮会」方式でおかわり自由の鍋とし、エントラントにも大好評でした。

CMSC山形の小川氏には審査委員で

お世話になり、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。今年もいろいろなことがありましたが、



来年こそはジムカーナを主催しよう—と心に決めたクラブ員たちでした。



# '90年、大活躍のCMSC山形

(CMSC山形 菅野 茂)

## '90年シリーズ最終戦/10月14日、11月4日

10月14日、月山湯殿山スキー場駐車場にて'90シリーズ最終戦のCMSC山形ジムカーナを開催しました。当日は朝から小雨、時々晴れ間という天候でしたが、エントリーは約120台と最後まで盛大に開催できました。

駐車場なのでバイロンコースとしましたが、高速コーナーありスピランありとテクニカルな設定。

三菱車のエントリーが5台と少々寂しかったのですが、当クラブの伊藤禎輝選手、佐藤昭昭選手の2人が、豪快な走りでCIIクラスで3位と5位に入賞しました。

また、11月4日には、県モータース

ポーツのダートラ最終戦を行い、シリーズ全戦を無事終了しました。

ダートラ部門では、シリーズチャンプが最終戦までもつれ込む激戦が展開され、当クラブではAIIクラスの菅野茂選手とAIIIクラスの杉山敏夫選手がこの最終戦で逆転チャンプをつかみ、有終の美を飾ることができました。

その他では、AIクラスで佐藤昭昭選手が6位、Dクラスで渡辺浩人選手が1位、清水潤選手が2位となりました。またAIIクラスでは鈴木日出明選手、青柳昭選手も上位入賞を果たしています。ジムカーナ部門は、CIIクラスの伊藤禎輝選手がシリーズ2位。

レース部門は、ミラージュレースの小川日出生選手(会長)が、今年もポイントを一人占めして、東北シリーズとフレッシュマンシリーズのダブルチャンプに輝きました。また木村政義選手、東江誠選手、鈴木一彦選手もそれ



ぞれシリーズ3位、5位、6位になりました。小川選手、木村選手の両名は、アメリカ招待の切符も手に入れました。

今年は、クラブ員も若い人が数人入部し、大変活躍した1年でした。

# 近藤選手の今後の活躍に期待

(CMSC香川 白井 修)

## CMSC香川 近藤選手の『'90オールスターダートトリアル』参戦記

私たちCMSC香川のメンバーの往復1856kmの道程をご紹介します。

今回の遠征は、当クラブの6人と車2台、そして他クラブですが、四国地区代表のAIIクラス2台、AIクラス1台の大所帯となりました。総勢11名、車5台が一気に行動するので、各車に無線機を渡し、無線で連絡をとりながらの道中となりました。

当初は、淡路島→阪神高速→名神高速→東名高速→首都高速→東北自動車道という予定だったのですが、阪神高速へ入った途端、工事で渋滞。その後名神高速でも20kmの渋滞に遇い、予定

を変更。東名をやめて中央自動車道を通ることにしました。

中央自動車道から長野自動車道を通り、上田市を抜けて金精峠にさしかかった時、なんと「積雪につきチェーン着装」の電光掲示板。こっちに回ったのは失敗か?と思いましたが、今さら後戻りも出来ず、峠に向かいました。頂上付近では路肩に雪が残っていましたが道路に雪はなく、ホッとしたのも束の間、下りはアイスバーンになっていました。そこは皆、それなりの腕を持っているので何とかクリアし、日光いろは坂で峠族を見物しつつ東北自動車

道へと向かいました。

東北自動車道、矢板北PAで仮眠をとり、その日の本番(すでに午前0時を過ぎていた)に備えました。

そしてA車決勝当日。他のメンバーは初めての丸和に感激し、「四国にももう少しましなコースがあったら!」と口々に言っていました。私は2度目だったので「疲れた」が本音でした。

競技の方ですが、さすがに全国のレベルは高く、近藤選手は最下位に近い下位に止まりました。オールスター出場の経験を活かし、今後の活躍に期待したいと思います。

帰りは、家に着くまで約18時間、疲労と睡魔との戦いでした。

また来年も丸和へ行きたいと思えます。ラリーアートの方々、よろしくお願ひします。ありがとうございました。



# '91年はジムカーナにも積極参加

(CMSC鳥根 国谷益雄)

## CMSC鳥根 '90シーズン参戦レポート

'90年はどうしたことか、結束の固い日本海ラリークラブ連合がガタガタで、当初開催を予定していたイベントが大幅に少なくなってしまいました。

CMSC鳥根としては、'90年は主催をしませんでしたが、今年は3戦の開催

を予定しています。

さて'90年の報告ですが、ダートラ部門で当クラブのギャランが2台もコケてしまいました。一台は再起不能、一台はまだ工事中です。本人たちは元気とやる気だけは充分ですが、なにせ金

が無いもので…。どうか彼らに「愛の手」じゃない「金の手」を差し伸べてやって下さい。

ジムカーナでは、今までオーガナイズ専門であったクラブ員が今年に実際に参加し始め、結果の方もまずまず。

6位入賞という輝かしい戦績もありました。本人たちも、来年からは全戦エントリーすると意気込んでおります。

これからもクラブを発展させ、モータースポーツ人口を増やしていきたいと思ひます。

# 大西康弘選手 (CMSC青森) 初の海外挑戦!

アジアパシフィックラリー選手権『ラリーofマレーシア』参戦記



8月19日、成田発マレーシア行きシートに身を沈め、初の海外挑戦の興奮を抑えつつ、優勝の夢を見ながら日本を出発しました。

今回の参加は、マレーシアの国営企業であるEON社と(株)ラリーアート、そしてタスカ・エンジニアリングの石黒社

長の協力のもとに、プロトンサガ4WD、グループS仕様という、非常に恵まれた体制での参加が実現しました。このページを借り、改めて関係者の皆様に感謝いたします。

さて全国のCMSCメンバーにアジアパシフィックラリー選手権「ラリーofマレ

シア」初挑戦の感想をご報告しましょう。

まず国内ラリーとの大きな違いは、コースの距離とタフさです。アベレージ100km/hを超えるハイスピードとトリッキーな悪路、そして暑さです。

ラリーの結果は、SSIでロス・ダン

カートンに次いで2位、SSIIで3位と順調に進みましたが、続くSSIIIで、判断ミスからフロントタイヤを橋にヒット。ロワアームをちぎられて、あえなくリタイヤとなってしまいました。我が人生最悪の瞬間でした。

しかし今回参加したロス・ダンカートンやロッド・ミレンと比較して、スピードの点では勝てると思えたことは大きな収穫でした。ただ、私には経験が不足していたと痛感しました。

今後、今回の失敗をバネに、次回の「ラリーofマレーシア」に照準を定め、もう一度チャレンジしたいとおもっております。

最後に海外をめざすCMSCのメンバーに一言。ラリーは速さも体力も必要ですが、一番大切なものは集中力、情熱、そしてチームワークです。

世界を目指すドライバーが、次々と我々CMSCの仲間から出て欲しいと願っています。

(CMSC青森 大西康弘)



# CMSC山形、V4に王手!!

'90チャレンジカップ中間ポイント発表(1~11月集計)

'90年度CMSCチャレンジカップもいよいよ大詰め。シーズン後半にかけて、ポイント争いも一層白熱してきました。まずクラブ別ポイントですが、前半

からリードを続ける山形が、1456点でダントツ。2位青森の831点に625点の大差をつけ、V4に王手をかける結果となっています。

個人部門では、ラリー部門、ナビゲーター部門、レース部門ともトップの変動はありませんでしたが、毎年混戦のスラローム部門では、後半戦になっ

て実力発揮の榎田選手がトップに踊り出ており、いよいよ目が離せなくなってきました。

## ●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
帯広	256	192	72		520
札幌	—	532	96		628
青森	281	380	170		831
岩手	—	—	—		0
山形	499	528	429		1,456
仙台	15	14	—		29
福島	—	—	—		
栃木	79	43	22		144
群馬	163	328	263		754
埼玉	95	26	116		237
千葉	—	—	—		0
岐阜	160	162	178		500
愛知	1	92	—		93
島根	52	38	77		167
香川	382	218	89		689

## ●ラリー・ドライバー部門

花沢宏之	青森	170
大西康弘	青森	152
渡辺俊昭	山形	96
船津康一	群馬	73
小林正夫	群馬	70
小山和邦	埼玉	51
杉本浩	愛知	50
長沢太郎	埼玉	49
福原英治	青森	46
佐藤一彦	埼玉	44

## ●ラリー・ナビゲーター部門

石田隆雄	青森	162
金子誠司	群馬	62
松岡敏寿	青森	60
今野泰正	山形	46
瀬々徹	埼玉	42
小林茂則	帯広	42
永沢裕之	青森	38
伊吹浩明	帯広	32
中村洋次	帯広	27
若林和昭	札幌	23

## ●スラローム部門

榎田正文	岐阜	450
高竹優之	香川	335
荒井信介	群馬	320
千田俊二	札幌	313
宝田芳浩	札幌	290
砂塚明男	山形	238
近藤健司	香川	166
赤羽政幸	山形	146
菅野茂	山形	118
杉山敏夫	山形	104

## ●レース部門

小川日出生	山形	290
木村政義	山形	100
東江誠	山形	94
鈴木一彦	山形	69
川口法行	栃木	40
郡司義光	栃木	28
吉沼昭雄	栃木	18
山口茂	栃木	16
並木松雄	栃木	16
佐藤政一	仙台	10

## ●ポイントのつけ方

ポイント	リタイアには予選通過も含む											
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

A = ラリー……全日本選手権、JMRC地区最上級シリーズ  
スラローム…全日本スピード行車選手権、地方スピード行車選手権、JMRCシリーズ  
レース……全日本選手権、地方選手権、ミラージュカップ  
B = それ以外の競技会